

- 対象者
- | | | | |
|------|---------|---------------------------------|----------------|
| ご招待制 | 会場参加 | 企業経営者の皆様 | ※全4回ご参加可能な方を優先 |
| 一般募集 | オンライン参加 | 経営企画・R&D部門、調達、サステナビリティ部門等のご担当者様 | |
- 開催方法
- 会場およびオンライン生配信
- 定員
- 会場参加：30名（完全ご招待制）
オンライン参加：100名
- 会場
- アマタホールディングス（株）東京オフィス内
イベントスペース「ビッグバン」
- 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台四丁目3番地
新お茶の水ビルディング12階
- ・JR「御茶ノ水駅」聖橋口改札目の前
 - ・東京メトロ千代田線「新御茶ノ水駅」BI出口直結
 - ・東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水駅」徒歩3分
- 
- 懇親会
- 各回終了後、19時まで懇親会を予定しています。（※会場参加のみ）
- 参加費
- 無料
- 主催
- アマタホールディングス株式会社

お申し込み方法 専用申込フォームまたは特設Webサイトよりお申し込みください。

ご招待の方（会場でのご参加）

アマタの役員・社員から会場参加のご案内をお受け取りになった方はこちらからお申し込みください。
※会場はご招待制です。ご招待者様以外の方はお申込みいただけません。



一般の方（オンラインでのご参加）

アマタグループのホームページ、メールマガジン、SNSなどでイベント情報をご覧になった方、アマタの役員・社員からオンライン参加のご案内をお受け取りになった方は、こちらからお申し込みください。



— 特設Webサイト <https://www.amita-mirai-compass.com/>



AMITA アマタホールディングス株式会社

〒604-0847 京都府京都市中京区烏丸通押小路上ル秋野々町535番地 日土地京都ビル2階
TEL：075-277-0378（代表） FAX：075-255-4527
東証グロース市場（証券コード：2195） <https://www.amita-hd.co.jp/>
※無断転載禁止

企業経営の未来を思考する全4回シリーズ

不確実な時代の未来指針を示す

羅針盤セミナー

AMITA

「時代を読む、
問いを立てる。
未来を航るために」

2025年 7/23(水)・9/11(木)・11/7(金)・12/4(木) 16:00-18:00
18:10-19:00 懇親会あり

経済大国から循環大国へ

資本の動きが時代を変え、 時代の流れが未来を決定する

気候変動や資源枯渇、地政学リスク、技術革新など、さまざまな要因が複雑に絡み合う「不確実性の時代」。今、多くの企業経営者が「時代の流れをどう見立て、何を信じ、どこに向かって舵を切るべきか」という根本的な判断軸の確立を最重要課題として捉えています。本セミナーシリーズでは、金融、哲学、経済、法律、外交、歴史、アートなど、さまざまな分野の第一線の有識者を招き、企業が価値を創出し続けるための“羅針盤”を示し、新たな経営の秩序と社会像を共に考えることを目的としています。

- ・ 近代とは何だったのか？
- ・ 今、時代は何を手放し、何を希求しているのか？
- ・ 企業や国家が硬直化から脱し、創造性を取り戻すためには何が必要か？
- ・ “守り”ではなく、“攻め”のサステナビリティ経営とは何なのか？

これらの問いに対する仮説を立て、共に検証する経営者コミュニティに、ぜひご参加ください。

1 2025年7月23日（水）
16:00～18:00 ※ 懇親会 18:10～19:00

2 2025年9月11日（木）
16:00～18:00 ※ 懇親会 18:10～19:00

3 2025年11月7日（金）
16:00～18:00 ※ 懇親会 18:10～19:00

4 2025年12月4日（木）
16:00～18:00 ※ 懇親会 18:10～19:00

資本主義の羅針盤

～今、何が起きているのか？～

冒頭input

トランプ2.0により、世界経済が激動しています。関税政策や貿易戦争等による分断と対立が進行する中、この先社会は、以前のグローバル経済に戻るのか？それとも全く新しい次元に移行するのか？この共通するQuestionを元に、各登壇者から以下テーマを踏まえお話しいたします。

- ・ **企業の情報開示のトレンド**
 - － ESG経営の在り方 / TCFDやTNFDの今後の展望
- ・ **資本の動向**
 - － アメリカからの資本移動 / 中国元の台頭 / 世界基軸通貨ドルの行方

ディスカッションテーマ

産業資本が金融を作る時代から、金融資本が産業を作る時代へ。そして、情報資本が金融と産業を作る時代へ。さらにこの先、生成AIが情報と金融と産業を作る時代が到来するのか？これからの時代における資本主義の羅針盤とは、いったい何か？

時代の羅針盤

～近代とは何か？
時代は何を希求するのか？～

冒頭input

近代の民主主義と資本主義が形成されて約250年。今、資本主義は安定調達の限界、格差や高齢化、雇用不安等による社会的限界、実体経済と金融経済の乖離による拡大市場経済の限界という三大限界に直面しています。資本主義の拡大再生産が収束し、産業革命の終焉期ともいえる現代社会を踏まえ、各登壇者の専門的知見からお話しいたします。

- ・ **「政治の羅針盤」 佐藤 優 氏**
 - － 世界の新しい秩序とはどのようなものか？
- ・ **「金融の羅針盤」 渋澤 健 氏**
 - － 金融資本と産業資本は今後も資本増幅が可能なのか？
- ・ **「経済の羅針盤」 安田 洋祐 氏**
 - － 三大限界を解決するための社会制度としての経済設計とは？

ディスカッションテーマ

人類史上初の超長寿、三大限界、そしてブロックチェーン、生成AI、量子コンピュータ等の技術が交錯する新時代の羅針盤とは、いったい何か？

未来の羅針盤

～カオスの大海を、
経営者はいかに航るのか？～

冒頭input

秩序と混沌が交錯する今、資源枯渇と気候変動により、人類は新たなエネルギーの確保を求められています。次なるエネルギーを、心や美意識などの「無形性の価値」と仮定した場合、はたして混沌の秩序化は叶うのか？生成AIの登場で、インテリジェンスが更なるインテリジェンスを生み出すこれからの時代の価値創出の在り方について、各登壇者にお話しいたします。

- ・ **「生活価値の羅針盤」 田中 優子 氏**
 - － 制約条件下の中の混沌から生まれる最適編集の美とは？
- ・ **「法理の羅針盤」 水野 祐 氏**
 - － 既存のルールが混沌を生み出した今、未来に向かってどう法をデザインするか？そのときの法理とは？
- ・ **「記憶価値の羅針盤」 中村 寛 氏**
 - － 写実の美は写真技術で印象へ移った。生成AI技術の発達で美の価値は？

ディスカッションテーマ

新たな時代には新たな価値の創り方が必要となる。我々はこの先どこへ向かい、どのような価値を生み出すのか？未来の羅針盤とは、いったい何か？

羅針盤シリーズ総括

「経営哲学の羅針盤」

文字が誕生してから約2800年が経過した紀元前800～200年頃、ソクラテスや釈迦、老子、孔子が普遍的な思想を説く軸の時代が到来しました。その約2800年後を生きる我々は今、歴史から、「霊性→知性→理性」のその先を創出できるかを問われているように感じます。

一方、資本主義の系譜をたどれば、約250年続いた収奪型の重商主義は18世紀半ばに限界を迎え、小国イギリスが産業革命の萌芽と共に台頭し、1776年にはアダムスミスが「国富論」を著して自由主義経済が幕を開けます。当時イギリスの人口は世界の約1％に過ぎませんでしたが、新たな資本主義モデルを提示することで、世界の潮流を変えました。現在の日本人口は世界の1.5%。日本から、未来を変える新たな資本主義への「レジームトランスファー（体制転換）」を起こすことは不可能ではありません。そしてそれは、国家ではなく民の力で実現すべきことだと考えます。

この、理性の先を問われる時代と、資本主義の転換点が重なる今、我々経営者は、いかなる未来を創造しうるのか？「資本主義」「時代」「未来」の羅針盤を振りかえり、事業家の視点からこの社会の理想の先を総括します。

登壇者

株式会社三井住友フィナンシャルグループ
執行役員 社会的価値創造企画部長

入江 堅治 氏

三井住友信託銀行株式会社
サステナビリティ推進部 フェロー役員

金井 司 氏

公認会計士

森 洋一 氏

ナビゲーター

アマタホールディングス株式会社 代表取締役会長 兼 CVO 熊野 英介

登壇者

作家
元外務省主任分析官

佐藤 優 氏

シブサワ・アンド・カンパニー株式会社
代表取締役

渋澤 健 氏

大阪大学 大学院経済学研究科 教授

安田 洋祐 氏

ナビゲーター

アマタホールディングス株式会社 代表取締役会長 兼 CVO 熊野 英介

登壇者

法政大学名誉教授・元総長
江戸東京研究センター特任教授

田中 優子 氏

法律家
弁護士 シティライツ法律事務所

水野 祐 氏

文化人類学者 デザイン人類学者 多摩美術
大学リベラルアーツセンター/大学院教授

中村 寛 氏

ナビゲーター

アマタホールディングス株式会社 代表取締役会長 兼 CVO 熊野 英介

登壇者

アマタホールディングス株式会社代表取締役会長 兼 CVO

熊野 英介

質問者

アマタホールディングス株式会社 代表取締役社長 兼 CIOO
アマタ株式会社 取締役

末次 貴英
宮原 伸朗

※プログラム・登壇者は、変更される場合があります。あらかじめご了承ください。